

◆ 平成24年7月3日（火）議長記者会見概要

場 所：議会事務局理事者控室

出席者：上田悟議長、高柳忠夫副議長



上田 悟 議長

高柳 忠夫 副議長

<案件>

○上田議長就任挨拶

本日私と高柳副議長が選任され、誠に光栄であり、職責の重大さを思うと身の引き締まる思いです。

まず議会基本条例を平成22年11月に制定いたしました。この条例の制定の趣旨は、今日的な地方自治のあり方を念頭におきながら、広く県民の皆さま方に開かれた議会運営をする、そして何よりも県議会の充実強化を図ることです。

まさに今、それを実効あるものとして取り組むこと、議会改革の名をもって取り組むことが、私と高柳副議長に与えられた大きな仕事だと認識しています。

私の場合は副議長の経験がありません。今日の天気のように青天の霹靂という言葉なのかもしれませんが、与えられた責務を全力投球で努めさせていただき、このことを改めて決意し、述べさせていただきます。

まずはこれをもってご挨拶とさせていただきます。

○高柳副議長就任挨拶

私も全く議長と同じで、副議長になるとは思ってもいませんでしたが、誠に光栄であり、身の引き締まる思いです。

思い返せば、議長と私は、実は議会改革推進会議でも正副座長なのです。

そういう意味からも、地方主権、地方自治を担う奈良県議会として、今一番必要と考えている議会改革を、どう具体化していくのかを考えています。

去年は議会改革の趣旨を広めてきましたが、今年はその中身を作っていかなければならない、そのことに尽きると思っております。

これを私の決意とさせていただきます。

<質疑応答>

- 記 者：まさに今議会改革推進会議の正副座長ですね。
議長として取り組みたいこと、目指したいことは何ですか？
- 議 長：議会改革推進会議の中でいろいろなファクターがありますが、今すぐ手がけられるもの、1年で取り組むもの、4年のスパンで考えるもの、さらには大きく議員の身分に関わるため各派連絡会に諮るものに分けています。
目の前にあることを着実に実行していく。そこに力をいれたいと思います。
副議長と連携しながら、進めたいと思っています。
- 記 者：色々な県政の課題があると思いますが、注目されているのは関西広域連合ですけれど、議長の立場としてどう考えていますか？
- 議 長：特別委員会は2年の任期であります。今日の広域行政調査特別委員会における中間報告にありますとおり、大変熱心に取り組んでいただきました。
これは少し冗談ですが、加入なさっている連合議会の方々よりも我が県議会のほうが真剣な議論ができたのではないかと思います。国の動き、関係省庁の動きなど色々な推移を見ながら議論を重ね、残り1年で何らかの結論を出して欲しいと思っています。
- 記 者：知事部局と議会が両輪となって県政が動いていくという二元代表制の元で、理事者側へのチェック役としてどのよな姿勢で臨まれますか？
- 議 長：理事者側から提案された議案をイエス、ノーとチェックしていただくだけが議会の仕事ではないと、皆さんも共通認識を持っていただいていると思います。
例えば議員発議の条例制定も含めて政策提案もできる43名の集団にならないといけないとの思いを皆持っていますので、大いに期待しています。
今、地域交通対策等特別委員会で、1つ手がけようとしています。何とか早く成案を出して欲しいものです。厚生委員会でも歯の健康に関する条例を手がけようとしています。
- 副 議 長：厚生委員会でも条例制定に向け、今後のスケジュールを検討する予定です。
実際に政策立案するとなれば理事者と情報を共有をしていかなければならない。そういう実際の事例をこれから作っていくことになるのではと思っています。
- 議 長：議会はチェック機関であると同時に、県勢発展のため、県民の負託に答えるために何をすべきかそれぞれ自覚を持って動いていかなければと思っています。
- 記 者：議長選の投票結果について、第一会派の自民党と第二会派の民主党との連携のもとで選ばれたのですが、国政では自民党は民主党への反発が強いのですがどうですか？
- 議 長：県勢発展のため、協調からスタートします。
- 副 議 長：信頼関係があって、県政の中で政策立案するとか議会改革する時の基軸に

なればと思います。

記 者：国政と地方議会は別ですか？

副 議 長：目に見える形にしていかなければならない。「県議会ではすべてが政党政
治ではない。」というのが国と地方の政治の違いと考えます。